

発行／坂城町公民館 発行人／中島 敏 編集／広報部 印刷所／滝沢印刷（同）
〒 389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条 2468 TEL.0268-82-2069



4月17日（月）、平成29年度坂城町公民館文化講座開講式が行われました。この講座は、新たな学びに挑戦しようとする初心者を対象としております。途中からの受講も歓迎します。講座内容は、ご家庭に配布されました生涯学習情報「まなびの玉手箱」や町内公共施設・事業所に掲示されておりますポスターを参考にしてください。

また、文化センターにおいて、文化講座受講者や文化協会及びその他の団体・個人の作品展を始めました。約4週間ごとに展示内容を更新しております。是非ご鑑賞ください。

内 容 :	2 P 平成29年度公民館体制	3-5 P ふるさと探訪PART98
	6-7 P 行事から、500字リレートーク 他	8 P お知らせ

平成29年度坂城町公民館事業スタート

春が来て新年度の公民館活動がスタートしました。

本館専門部のみなさん、分館役員のみなさんをご紹介します。一年間よろしくお願ひします。

【分館役員のみなさん】

(敬称略)

分館	分館長	副分館長	文化部長	体育部長	広報部長
鼠宿	赤池 登	真壁 勲 上原 哲夫	西沢 秋男	富井 裕治	吉岡 亮
新地	多田井 祐二	池田 宏	内山 英三	横山 幸次	瀬下 幸二
金井	三井 三彦	宮嶋 洋治	清水 敬三	赤池 良二	三井 義知
入横尾	原山 公男	葦澤 賢二	近藤 哲也	滝沢 利憲	宮下 信彦
町横尾	河合 双葉	松崎 英和	桜井 清一	吉澤 光規	堀内 哲
泉	吹山 豊	照喜名 恵	柳澤 美代子	守倉 信行	野崎 友美
中之条	野中 徳彦	柳沢 次夫 丸山 健一	柳沢 昭一	水野 一光	荒城 エリ子
四ツ屋	飯島 孝則	中沢 澄夫	柳沢 満	矢島 満	金沢 光雄
戌久保	吉川 芳秋	森 一美	竹内 志人	前澤 良行	丸橋 建一
御所沢	富山 勝幸	竹内 繁弘	倉島 千恵	小口 秀男	小出 喜代江
田町	櫻井 肇	山田 政幸	水野 弘子	井上 智之	宮下 琴美
横町	大塚 和夫	山崎 文男 竹鼻 春幸	佐藤 准一	池田 裕宣	芝田 宏靖
込山	内堀 政行	小日方 恒穂	中沢 政博	吉澤 雅弘	宮尾 哲哉
立町	宮下 陽市郎	池田 健司 田村 譲	大森 茂彦	畑山 哲次郎	植松 祐介
旭ヶ丘	荒井 明	青木 建治	寺澤 諭	北沢 圭介	柳澤 收成
南日名	谷川 與士夫	小宮山 道則 小宮山 育朗	谷川 俊昭	小山 民雄	谷川 俊昭
北日名	高井 光敏	西澤 和吉 池田 弘文	園原 哲也	関 哲也	池田 弘文
日名沢	関 茂雄	春日 慶一	鈴木 康治	松本 勝巳	鬼頭 さつき
大宮	太田 正夫	手塚 光二	小林 清樹	小山 弘昭	金崎 晃児
新町	宮入 義隆	横山 洋一 磯野 一真	池田 昌弘	黒岩 千尋	千野 美明
坂端	高橋 富夫	高橋 昇	竹内 秀雄	丸山 真哉	高橋 貴
苅屋原	千野 義夫	井上 敏章	宮原 努	神田 友和	前島 浩治
網掛	宮崎 光明	澤崎 利治	小宮山 公明	大井 栄一	柄澤 忠明
上五明	伊藤 廣	山城 守好 滝澤 一好	戸澤 裕介	塚田 浩二	小林 淳子
上平	中澤 誠	滝澤 千恵	小林 美和子	永井 浩樹	高橋 幸一
小網	田中 健仁	吾妻 幹夫	宮下 護	梅原 淳一	赤池 志麻
月見	横田 勲	春日 元男 滝澤 元仁	竹内 薫	大山 博昭	板倉 信佳

本館専門部員のみなさん

専門部は、町公民館の事業をそれぞれ分担して企画立案し、公民館運営の要として活動します。

総務部

町公民館事業全体を検討し、推進します。

部長 吉川 芳秋 (戌久保)
副部長 河合 双葉 (町横尾)
部員 荒井 明 (旭ヶ丘)
宮入 義隆 (新町)
田中 健二 (小網)

文化部

文化事業を企画し、運営します。

部長 西澤 秋男 (鼠宿)
副部長 浅野井雅宏 (網掛)
部員 水野 弘子 (田町)
竹内 秀雄 (坂端)
竹内 薫 (月見)

体育部

健康増進のため体育事業を企画し、運営します。

部長 小口 秀男 (御所沢)
副部長 畑山 哲次郎 (立町)
部員 横山 幸次 (新地)
水野 一光 (中之条)
関 哲也 (北日名)
塚田 浩二 (上五明)

広報部

公民館報を編集し、発行します。

部長 金沢 光雄 (四ツ屋)
副部長 鬼頭 さつき (日名沢)
部員 三井 義知 (金井)
野崎 友美 (泉)
高橋 幸一 (上平)

力士雷電と坂城町

力士雷電と坂城町

今年、平成二十九年（二〇一七）は、信州が世界に誇る「力士雷電」生誕二五〇年の節目の年です。今回は、力士雷電の生い立ちや活躍と、坂城町との関係を紹介します。

1 幼少期の力士雷電

雷電は明和四年（七六七）に、小県郡大石村（現在の



雷電生家（東御市）

東御市滋野）に、百姓の関半右衛門の長男として生まれ、太郎吉（一説には樽吉）と名付けられました。幼少期より怪力の持主であったらしく、①夏の夕方、雷電の母が庭先で入浴していたところ、夕立が降ってきたため、雷電が入浴中の母を鉄砲風呂ごと持ち上げて屋内に避難した話や、②馬に荷物を乗せて運んでいた雷

はんね石（群馬県安中市）



電が、中山道碓氷峠の難所「はんね石」（幅の狭い山道）で、対向してくる加賀前田家の参勤交代行列を、荷物を乗せた馬ごと肩に乗せて、やり過ぎした話が残っています。

白鳥神社（東御市）



小県郡長瀬村（現在の市原市長瀬）の上原源吾右衛門に預けられ、相撲のほか読み書き・計算などを学びました。この間、小諸八幡宮の「八朔相撲」（八月一日に神社に奉納された相撲。平成八年に小諸市重要無形民俗文化財に指定された）に出場したと伝わっています。

小諸八幡宮（小諸市）



天明年間（一七八一〜八九）に白鳥神社（東御市本海野）で行われた興行相撲に出場し、江戸から巡業に来ていた浦風林右衛門に、その才能を見込まれて江戸に同行したと伝わっています。



力士雷電 画像提供：相撲博物館



本所回向院 (東京都墨田区)

2 大相撲力士雷電

浦風林右工門に連れられて江戸に出た雷電は、谷風梶之助に入門して稽古を行いました。初土俵前の修行中の身でありながら、松江藩主松平治郷(不味)により「切米八石三人扶持」(現在の貨幣価値で年間四十〜七十万円)をもって出雲藩のお抱え力士となりました。初土俵前に藩のお抱え力士に取り立てられるのは

異例で、修行中の雷電が相当な実力を発揮していたことがうかがえます。寛政二年(一七九〇)十一月に、江戸本所回向院で大相撲初土俵を踏みました。番付は「西方関脇付け出し」で、これもやや異例のことでした。対戦成績は八勝二預(全戦土つかずで、優勝相当の成績)で、第五代横綱の小野川喜三郎に勝ったものの「預り」(ス



坂城神社 (坂城町坂城)

ター力士の小野川が初土俵の力士に負けたことから、強引な物言いがついたと言われる)となりました。雷電はこの取組の模様を「小の川(小野川)もなげ候」



茅場町薬師 (東京都中央区)



中條神社 (坂城町中之条)

3 力士雷電と坂城

雷電は江戸を主な活動場所としていましたが、本場所が無く、国元の出雲藩への参勤交代も無い期間は、各地を渡り歩いて相撲興行を行っていました。信州で

と記録しています。本所回向院の初場所から、文化八年(一八一二)二月の茅場町薬師の春相撲を全休して引退した間の勝率は九割六分二厘(二百五十四勝十敗二分十四預五無四十一休)で、史上最強の力士といわれています。

も何度か興行を行って
おり、坂城町では二回雷電
ちの興行相撲が行われま
した。

寛政十二年(一八〇〇)
に、坂木宿(坂城神社)で
相撲興行が行われました。
雷電の記録には「夫ヨリ
信州坂木宿ニ而 二日
興行致候所 此所は天気
よし はんぢやう致申候

福蔵と申者世話致し 五分
五分ニ而取申候 木戸高
十五両斗も取申候」とあ
り、福蔵を勧進元として行
われた二日間の興行は、晴
天にも恵まれ大入りで、木
戸銭から半分の十五両(現
在の貨幣価値で四十五
六十五万円)の儲けになっ
たことが分かります。
文化二年(一八〇五)七



中條神社四本柱免許状 (中條神社蔵)

月に、中之条(中條神社)
で相撲興行が行われまし
た。「廿三日出立 同国(信
濃国) 中野城(中之条)と
申にて 三日興行仕候
百貫斗残り申候」とあり、
中條神社で三日間の興行が
行われ、百貫(現在の貨幣
価値で四十〜六十万円)の
利益があったことが分か
ります。
中條神社は古くから相撲
が盛んなようで、雷電の興
行から四十年後の弘化五年
(一八四四) 江戸相撲年寄
から、四本柱土俵奉納免許
を受領しています。土俵に
四本柱を建てるのは格式の
高いことで、中條神社の土
俵が相撲会所(現在の日本
相撲協会に相当)から公認
を得た事を示します。

4 大相撲と日本刀展

坂城町鉄の展示館では、
大相撲の歴史と日本刀に焦
点をあてた展覧会「大相撲
と日本刀展」を、九月七

一 その御村方鎮守 中條神社
永代四本柱土俵奉納免許
今般我等心願により、神事祭祀の
節、永代四本柱土俵奉納せしむるものなり。
よって、免許件のごとし。

本朝相撲司御行司
吉田追風門人

江戸相撲年寄
甘山六代目

弘化五戊申年
二月
劍山谷右工門
恒重 (花押)

信州埴科郡中之条村
御若衆中

日(木)〜十一月五日(日)
まで開催します。

主な展示品は、第七代稲
妻雷五郎、第十三代鬼面山
谷五郎、第二十四代鳳谷五
郎、第三十一代常ノ花、第
三十五代双葉山、第四十八
代大鵬、第五十二代北の富
士、第五十三代琴櫻、第
五十五代北の湖、第五十七
代三重ノ海、第五十八代千
代の富士、第六十二代大乃
国、第六十三代旭富士、第
六十七代武蔵丸、第六十九
代白鵬、第七十代日馬富士、
第七十一代鶴竜、第七十二
代稀勢の里ゆかりの太刀や
化粧まわし。雷電為右衛門
の道中差。第四代谷風梶之
助・第五代小野川喜三郎の
横綱授与の図錦絵、行司..
第三十六代木村庄之助の衣
装・短刀拵・印籠・軍配など。
展示品は前期・後期で展
示品は全て入れ替わりま
す。詳細は鉄の展示館にお
問い合わせください。
(☎82-1128)

教育文化課文化財係

時信武史・本間美麻

第34回坂城町囲碁大会開催

3月19日(日)、文化センター中会議室において第34回坂城町囲碁大会を開催しました。23名の参加がありました。

公民館長杯

優勝	原 光王	網 掛
準優勝	宮沢 輝男	鼠
三位	小山 猶幸	月 見
四位	片桐 正	入横尾
五位	竹内 利夫	四ツ屋

文化協会長杯

優勝	市川 静男	上 平
準優勝	小野 晃一	日名沢
三位	喜多 進	中之条
四位	武内 範夫	新 地
五位	小出 一彦	御所沢



第34回坂城町将棋大会開催

囲碁大会の翌週、3月26日(日)、文化センター中会議室において第34回坂城町将棋大会を開催しました。60名の参加がありました。文化協会長杯で春日恭蔵(新町)さん89歳や宮下司(入横尾)さん85歳の参加もあり、共に5勝1敗と大健闘されましたが、「勝ち点」の関係で入賞を逃しました。結果は次のとおりです。

公民館長杯

優勝	田中 博己
準優勝	高橋 智哉
三位	栗林 清登

文化協会長杯

優勝	石井 壮一
準優勝	宮崎 博
三位	柳沢 広幸



分館活動紹介

金井区敬老会をかえりみて

平成二十八年年度分館長 小山治三

今年も早いもので五月末、青葉若葉の季節を迎えています。今年の金井分館の球技大会も、四月九日に行われ、分館活動が順調にスタートしました。分館役員の皆様ご苦労様です。

本館より、昨年度大改革した金井区敬老会の取組について掲載依頼がありましたので、現状を少しお話しします。金井区は、約五六〇戸の大きな区です。少子高齢化が進み、平成二七年度敬老会対象者、七〇歳以上の方は、三八八名と大変大勢になる中、出席者は減少傾向にあります。不参加の皆様には、お祝いのお菓子が配られます。分館役員さんには、大変ご苦労をさせていただいていました。

そこで二八年度は、対象者を七五歳以上に変更し、昨年より一三五名減少となり、出席者も減るのではないかと心配しました。金井区は、敬老会を区中心部から離れた坂城テクノセンターで行っております。区长さんに相談し、マイクロバスを運行することにしました。費用は、対象者減少分より捻出し、結果として昨年以上の出席者となりました。高齢者にとつての足、移動の手段は何よりも大切だと思います。

祝賀会には、町長さん始め来賓の皆様よりご祝辞をいただき、にぎやかに歌・踊り・三味線・手話ダンス等、また全員で炭坑節を踊り、坂城町の歌を合唱、そしてカラオケで楽しみました。例年、催し物で盛り上げていただき、感謝申し上げます。これからもご近所の絆を大切に、公民館活動に積極的な参加をお願いします。最後に皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

祝賀会には、町長さん始め来賓の皆様よりご祝辞をいただき、にぎやかに歌・踊り・三味線・手話ダンス等、また全員で炭坑節を踊り、坂城町の歌を合唱、そしてカラオケで楽しみました。

例年、催し物で盛り上げていただき、感謝申し上げます。これからもご近所の絆を大切に、公民館活動に積極的な参加をお願いします。

最後に皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



第27回長野県市町村対抗駅伝競走大会 第13回長野県市町村対抗小学生駅伝競走大会 に出場しました。

4月29日(土)、松本市広域公園陸上競技場をスタート・ゴール地点とした標記駅伝競走大会に出場しました。日差しが強く風の強い日でしたが、一般の部の選手も、小学生選手も、町の代表として、精一杯走りました。皆様、応援ありがとうございました。

第27回長野県市町村対抗駅伝競走大会
(一般の部(中学生以上)、参加58チーム)
坂城町 26位(昨年38位)
2時間33分02秒(42.195km 9区間)

第13回長野県市町村対抗小学生駅伝競走大会
(小学生の部、参加62チーム)
坂城町 38位(昨年60位)
24分43秒(6.1km 4区間)

リトミック教室 開講しました。

5月10日(水)、文化センター大会議室で体を動かしながら、楽しく音感がみにつくリトミック教室が中沢敏江先生の指導により、今年も開講しました。若干定員に余裕がありますので、興味のある方はぜひ坂城町公民館までお問い合わせをしてください。(～2月21日まで 毎週水曜日)



キッズスポーツ教室が スタートしました。

5月10日(水)、今年もキッズスポーツ教室が開講しました。教室は、幼少期のお子様が、いつもとちがうお友達と運動したり、楽しいレクリエーションゲームを通じて、スポーツに親しみ、豊かな創造力を育んでいきます。長野体育指導センター山崎修先生の指導のもと、30名の子供たちと1年間元気良く活動していきます。(～3月7日まで 毎週水曜日)



5000字リポート 家庭菜園との 出会い

小林 晴茂

小川村の農家に生まれながら、農業に関心があったかといえば自信がありません。まして、就職してからは、実家から離れての生活でしたので、ますます農業から縁遠くなりました。

縁あって坂城町へ越して三十余年がたち、そんな私も七年前に定年を迎え、これからの人生いかに過ごすか自問しなくてはなりませんでした。

そんな折、それまで同居している父が町内で借りて耕作していた野菜畑を、父の病を機に引き継ぐこととしました。

これまで農業の経験がほとんどない私にとって、何もかもが戸惑いの連続でした。

父が残してくれた農機具などは老朽化が進み、使い勝手が極めて悪いことから、軽トラック、耕運機、草刈機などを買い替えました。もう後戻りしないため

の決心を固めることになったと思います。三年前に父が他界し、父が残したものは全て私が受け継ぎました。

現在、耕作している畑は200坪弱ですが、自家用の野菜畑としては充分すぎる広さです。子供達は三人とも所帯を持ち、孫も四人になりました。孫の口に入るものは、できる限り無農薬でありたいと思い、野菜にとりつく虫との悪戦苦闘の日々を送っています。

まだまだ、初心者の方は脱していませんが、これからはおいしい野菜作りを目指し日々努めていきたいと思っています。

今回は、田町の金子^{かずふみ}さんにバトンタッチします。よろしくお願ひします。



春らしい暖かな一日、耕運機で耕し種まきの準備をしています。

第39回納涼音楽会

夏の風物詩である納涼音楽会が今年も開催されますので、ご参加ください。

日時 7月8日(土)

午後1時開場・1時30分開演

場所 文化センター 1階 大会議室

主催 坂城町音楽愛好会・坂城町公民館

出演 町内音楽団体

アルストロメリア 童謡唱歌を楽しむ会

坂城オカリナ教室 坂城コーラス

モアナハワイアンズ 坂城町吹奏楽団

坂城ローズガーデン

町内小・中学校からも参加を予定しています。



『第62回坂城町成人式』

8月15日
開催!!

62回目を迎える今年の成人式の該当者は、平成8年4月2日から平成9年4月1日生まれの方で、町内に住所を有している方、または坂城中学校を卒業した方等が対象です。

～名簿の作成と「ご案内」発送についてお願い～

☆成人式の「ご案内」は、7月上旬に発送を予定しています。

☆発送は、学生等で町外に転出されている方についても、町内ご住所（実家等）宛となります。

☆ただし、次に該当される方、または、該当する人を知っている方は、お手数でも町公民館事務局までご連絡ください。

- ① 発送先を上記以外に希望される方
- ② 婚姻等で姓・住所が変わった方
- ③ 世帯ごと町外に転出されている方
- ④ 町内の方で、坂城中学校以外へ進学等された方

【連絡先】 坂城町公民館事務局 電話 82-2069

さかきふれあい大学

親子で参加

川の学校

千曲川に生息している魚等について親子で楽しみながら学ぶ講座です（2日間）。

講師 後藤敏一さん、後藤正一さん

会場 千曲川（坂城大橋下周辺）

日時 7月1日(土) 午後3時～6時30分

7月2日(日) 午前5時～9時

受講料 1,000円



親子で参加

子育て応援講座

「ベビーマッサージ」

ベビーマッサージや子育てについて学習しよう。

講師 高見澤しま子さん（助産師）

会場 保健センター

日時 7月13日(木) 午前10時～11時30分

受講料 500円（1組）

定員 15名

持ち物 バスタオルなど



第37回町民ゴルフ大会

町民の親睦と健康増進、体力・技術の向上を目的に、町民ゴルフ大会を開催します。

期日 7月23日(日)

会場 浅間高原カントリー倶楽部

参加費 3,000円

申込期間 6月24日(土)～26日(月)

午前10時～午後4時

申込場所 文化センター2階ロビー

募集人員 200名

参加資格 町民・町内勤務者

競技方法 18ホール 新ペリア方式



説 館 開 かい 歌 ぜ

木々の緑が濃くなってきました。坂城町は、町花「バラ」の季節を迎えています。

六月十日は時の記念日です。

近頃は、電波時計の普及で利用が減ったと思えますが、昔、時計の時刻を合わせるために、

電話会社の「時報案内サービス」を利用した経験はないでしょうか。

一七番に電話をする

と、「午前（または午後）八時五分二〇秒をお知らせします。ピ・ピ・ポ

ン」とアナウンスされます。このアナウンスは一九九一年（平成三年）から使われています。

それ以前は、「ただいまより、八時五分二〇秒をお知らせします。ピ・ピ・ポ

ン」でした。

電話会社は、「時報アナウンスに『午前・午後』

を入れて欲しいという

利用者の声があり変更した」と説明しています。視覚障がいのある方の中には、明るさを感じる

ことができない方もおられます。一日の生活リズムがあるにしても、午前

八時なのか、午後八時なのかを知らせてほしいとの願いがあつたのではないかと推察します。

「バック中のトラック、盲導犬と男性に気づかず、死亡事故」「盲導犬

を連れた男性、地下鉄ホームから転落し、電車にはねられ死亡」等のニュースが続いていま

す。

路上の点字ブロック

や字幕放送等々が当たり前になりました。し

なの鉄道坂城駅には、二〇一四年（平成二六年）

エレベーターが設置されました。誰もが安全に、

そして安心して暮らせる

社会整備が進んでいきます。しかし、まだまだ

十分とは言えないのかもしれない

かもしれません。